

涼しい風が吹き、過ごしやすい季節となりました。登園してくる子どもたちの手には、様々な形のどんぐりや色づいた葉っぱが握られていて、秋の深まりを感じさせられます。神さまが与えてくださるたくさんの恵みに感謝して、秋から冬への生活も子どもたちと一緒に楽しみたいと思います。

「かけっこがしたいな」 — 保育者と一緒に心と体を動かす —

ある日、お弁当を食べていた A ちゃんが「先生、お弁当を食べたらかけっこがしたいな」と言いました。私が「いいわよ、後でお庭に出て一緒にしましょうね」と答えると、A ちゃんは嬉しそうな顔で「やったー」と言いました。

お弁当を食べた後、私と A ちゃんはかけっこをするために芝生の横に立ちました。するとそこに B ちゃんが「ぼくもやりたい」とやって来て、隣りに並びました。私が「よーい、どん！」と声をかけ、3人で芝生の周りを走りました。スタートラインやゴールもないので、好きなだけ芝生の周りをぐるぐると走ります。A ちゃんは「先生の隣りを走ろう」と言って、私の隣りを嬉しそうに走っていきます。B ちゃんは足と手をたくさん動かして先へ先へと走ります。「走るって気持ちがいいわね」と私がつぶやくと、隣りにいた A ちゃんもにこにこした顔で「走るとあったかいね」と言いました。

何周か走った後、私は「たくさん走ったから、少し休憩することにしましょう」と言って芝生の上に寝転びました。その様子を見た A ちゃんも「ぼくも休憩しよう」と言って、私の隣りで寝転びました。B ちゃんもしばらく走ってから寝転び、一緒に空を見上げました。その日は気持ちのよい秋晴れの空が広がっていました。「雲が見えたー」「風が涼しいよ」「芝生がちよっとちくちくするね」と話しながら、A ちゃんも B ちゃんものんびりと秋の空を眺めていました。

それからしばらくして「そろそろ走ろうかな、先生も一緒に走ろうよ」と言って A ちゃんが起き上がりました。「ぼくも走る」と言って B ちゃんも起き上がると、私も起き上がり、また一緒に走りだしました。その後も時々芝生で休みながら、走ることを繰り返し楽しみました。

年少組の子どもたちは、先生や友だちと一緒に走ることが嬉しくなり、体をいっぱい動かすことをより楽しんでいきます。



「わたしもカラスになりたいな…」

保育の視点②④より

— 好きな遊びを繰り返し楽しむ。

集う時や共有の体験を通して好きなことを広げる —

9月の終わりの頃より年少組では絵本「からすのせっけん」（福音館書店）のお話の世界を楽しむ中で、友だちに出会ったり、保育者と共に共有の体験をしています。子どもたちはカラスになることが好きになり、スマックを羽にして飛んだり、紙で作ったせっけんを使って体を洗ったりすることを楽しんでいきます。

ある日 C ちゃんと D ちゃんは、いつものようにスマックを羽にしてカラスごっこをしていました。羽を広げてお部屋の中を飛んで散歩に出かけたり、「かあかあ」と鳴いて遊んでいます。その様子を傍らでじっと見ていた E ちゃんがありました。E ちゃんはそれまで「先生、これ読んで」と言って、「からすのせっけん」の絵本を繰り返し持って来たり、からすごっこをしている様子を、積み木やレール汽車をしながらよく見ていました。私は「カラスのお家ね」などと声をかけ、E ちゃんが動き出す時を見守っていました。

この日 E ちゃんはスマックを羽にして、少しずつ少しずつ C ちゃんと D ちゃんがいるカラスのお家に近づいていきました。カラスの家の傍でじっと見つめています。すると C ちゃんが E ちゃんに気がつき「E ちゃんもカラスなの？カラスのお家はここだよ。カラスは入ってもいいんだよ」と言いました。E ちゃんは思いがけないような、でもとても嬉しそうな顔でにこっと笑いました。C ちゃんと D ちゃんは「靴はここで脱いでね」「せっけんはここだよ」などと言って E ちゃんを迎え入れます。E ちゃんはこのにこした顔でカラスのなかまに入っていきました。（このようにうまくいくことばかりではありませんが、この時はとてもほほえましい光景でした。）

あんまり楽しそうだったので「カラスさん、せっけんを借りにきました」と言って私も入り、E ちゃんと、C ちゃん、D ちゃんも一緒に♪じゃぶじゃぶ ぷるる ぷわららら～と歌いながらせっけんを使って体を洗いました。それからせっけんをかじって「まずいねえ」と言って笑ったり、スマックの羽を広げて散歩に出かけることもしました。

先月号ではバツタになることを楽しんでいる子どもたちの姿とともに、じっと見ている子どももいることをお伝えしました。今、E ちゃんのようにやりたい気持ちをじっと見てためていた子どもたちが、少しずつ動き出している姿があります。それぞれ動き出す時がくることをあたたかく見守りつつ、「おもしろそうだな」「やってみたいな」と思うようなきっかけを支えていきたいと思っています。

（杉本 美緒）